

# 女性自立・収入向上

「自立度は90%です」 — 15年間支えてきたCOWHEDの自己評価 —



フロリタさん縫製の長財布布など、HANDS 注文の品を並べて待っていてくれたマイダさん



COWHEDはチボリ文化発信地として観光局DOT関係者の訪問も受けました。DOT訪問の看板の前でマネージャーのジェナリンさん(左)とネニータさん

11月のレイクセブ町滞在最終日、山岳部のアグロフォレストリー事業モニターを終えて、COWHEDの店舗を訪ねました。揃えておいてくれた注文の品を受け取り、ビーズ製品については子どもたちが喜びそうなブレスレット等を選んで、スタッフのマイダさんに集計してもらいました。たくさん購入したように思いましたが、合計1万ペソ(約26000円)程度です。値の張るバッグはなく小物中心だったためもあります。

マネージャーのジェナリンさんから、10月のマニラのイベントで10万ペソ売れたと聞いていたほか、前号で報告のDTI(貿易産業省)による協力など、国内市場の拡大、関係省庁による評価の面で、COWHEDの急速な発展には目を見張るものがあります。居合わせた組合長のネニータさんに、ズバリ自立度の評価をお願いしました。少し考えた後、90%位という答えが返ってきました。同時にこれまでの当団体の支援への感謝の言葉もいただきました。

一方で、日本国内では、レイクセブのハンディクラフト、特にティナラク製品の愛好者が増え続けています。自立度90%のCOWHEDとの関係は、これからは支援というより、よい製品を日本の皆様に届け、品質改良への助言などを伝えるものになるかと思えます。

なお、レイクセブ町にはCOWHED(組合員215名)を筆頭に、大小のハンディクラフト組合がありますが、参加には組合費が必要で(COWHEDは1000ペソ)、3年前に、焼畑に代わる代替収入源としてビーズ細工の始業資金を支援したセブ湖の島の女性たちの中には未加入の人も多いようです。いずれにしても、観光地レイクセブ町では、ホテルや土産物店に卸すほか、外部業者の買い付けもあります。ハンディクラフト技能をもつ女性たちには選択肢が多く、恵まれているといえます。

今後の私たちの女性の収入向上、自立支援を考える上で参考になればと、以下、ビラーンの村アトモロック母親クラブの取り組みをご紹介します。

## 母親クラブと教師たちが繋げてきたアトモロックの収入向上の活動

ジョジョさんのヘルス活動報告にもハーブ薬研修等の活動事例として時々登場したアトモロック地区の母親クラブは、収入向上の面でも大変頑張っています。その稼ぎ頭は、18年ほど前の多目的住民組合育成事業で購入したトウモロコシの処理機械コーンシュエラーです。この事業自体は、住民の事前研修不足や農作物の不作続き等が原因で、数年で解散し、農業機材も故障して放置されていると聞きました。しかし、いつ頃からか、母親クラブが住民に貸出して重要な収入源にして、収益でコーンの天日乾燥場まで作ってしまっていました。

HANDSも12年前に、神奈川県FRN基金の助成を受けて、アトモロック母親クラブと一緒に、豚の飼育、野菜栽培、ビーズ製品づくり等の収入向上事業を実施したことがあります。事業で製作のビーズ製品は、品質面でまだ日本での販売は難しく、CMIPの教会関係ルートを通じてマニラ等で販売してもらいました。

今また、CMIPエリアの各村では、ビラーンやチボリの伝統的手仕事推進の活動が始まりました(P1参照)。このミッション主導の伝統工芸復活事業は、その受け皿となる女性組織がまだ育成されていませんが、アトモロックの場合は、母親クラブが中心になって、刺繍やビーズ等の伝統的手仕事を収入向上の手段として、デザイン面の工夫などの品質改良に取り組めるかもしれません。子育てをしながら、長く子どもたちの教育にかかわってきたディダン、レスリー、エルナの3人の女性教師の存在もアトモロックの母親クラブの強みです。



学校農園のハーブ畑手入れのため集まったアトモロック母親クラブのメンバー

## ビラーンの伝統織ナバルタビ技術の継承と収入向上事業

昨年11月に予定していたポロモロック町アムグオの「織の家」訪問は都合で取りやめましたが、半年前に注文の織2種は、年末にDHLで届き、縫製ボランティアによりバッグなどに仕立てています(写真)。アムグオでの伝統技術継承と収入向上事業の受益者はまだ数名にすぎません。受益者を増やすため、NTPの組織改革をマネージャーのスヌーリアに進言しているところです。

